

「家庭基礎」学習指導案

修道学園 広島修道大学ひろしま協創高等学校
教諭 平岡 美紀

本学習指導案のポイント（ 高校教育指導課 指導主事 中村 誉子 ）

○経済計画について主体的・対話的に考察させるためにパフォーマンス課題を設け、生涯を見通した経済計画について問題解決的に学びを深めるようになっている。

○状況の異なる3つの世代の経済計画について、個人で考えた後にグループで検討させ、発表を通して全体で共有させることで、金融商品は自身の状況や価値観に応じてバランスよく配分する必要があることに気付かせる実践となっている。

- 1 実施日：令和7年11月13日（木）6限：14時00分～14時45分（45分）
- 2 学年・学級：第1学年6組 33名（男子 17名 女子 16名）
- 3 単元名：生涯の経済生活を見通す
- 4 単元について

(1) 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領家庭（平成30年告示）「家庭基礎」の「C持続可能な消費生活・環境」(1)「生活における経済の計画」に位置付いた学習内容である。ここでは、家計の構造や家庭経済と国民経済との関わり、収入と支出のバランスの重要性を理解するとともに、ライフステージの変化や社会保障制度などと関連付け、リスク管理も踏まえた生涯を見通した経済計画について考察できるようにすることをねらいとしている。

(2) 生徒観

事前に行ったアンケートでは、家計管理における収支バランスの重要性については多くの生徒が理解していた。しかし、ライフステージの変化に伴う収入・支出の変化や資産形成、さらにそれらに関わる金融商品について基本的な知識をもつ生徒は少なく、多くの生徒にとって生涯を見通した経済計画を具体的にイメージすることが難しい状況であることが分かった。そのため、各ライフステージに応じた収入・支出の変化やリスクに備える視点、金融商品の特性など基本的な知識を理解するとともに、情報を適切に判断し生活設計を行う力を身につけさせたい。また、将来の具体的な生活をイメージし、経済的側面から自らの生き方や暮らし方について考えることができるようにしたい。

(3) 指導観

本単元では、生徒が家計管理や社会保障、資産形成等に関する基礎的な知識を理解するだけでなく、それらを自分自身の生活と関連付けて捉え、適切に活用できるよう指導したい。そのため、単元前半では「ライフプランシミュレーター」（金融庁）や「ライフサイクルゲームⅢ」（第一生命）、後半では「資産形成ゲーム」（株式会社イーラーニング研究所）などの教材を活用し、将来の生活を具体的にイメージしながら理解を深められるようにする。そして、単元のまとめでは、学習して得た知識や気付きを整理し、「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール（金融経済教育推進機構）への応募を想定した小論文作成に取り組ませ、経済的側面から自らの生き方や暮らし方を見つめ直し、責任ある生活者としてよりよい生涯の暮らしを創造しようとする態度を養うとともに、自分の考えを根拠に基づいて論理的に表現する力を育成したい。

5 単元の目標

- (1) 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解することができる。
- (2) 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現することができる。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家計の構造や生活における経済と社会との関わり、生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解している。	生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参加しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

7 指導と評価の計画（全 11 時間）

次	学習内容（時数）	評価			評価方法
		知	思	態	
1	・パフォーマンス課題「金融と経済を考える」高校生小論文コンクールについて ・安定した経済生活を営む <1時間>	◎		○	・ワークシート ・定期試験
2	・家計をマネジメントする <2時間>	◎			・ワークシート ・定期試験
3	・社会保障の考え方 <1時間>		◎		・ワークシート ・定期試験

4	・家計資産をマネジメントする(家計資産の形成) <3時間> ・・・本時3/3時間	◎ ○	・金融資産の基本的な特徴とそれぞれのメリット・デメリットを理解している。【知】 *資産形成においては、貯蓄と投資をバランスよく配分することが重要であることを理解している。【知】 ・適切な貯蓄・投資行動を選択することについて、考察したことを論理的に表現している。【思】	・ワークシート *定期試験
5	・これからの経済生活 <2時間>	○ ◎	・投資を含む個人の資産形成が社会を支え、持続可能な社会の形成につながることを理解している。【知】 *よりよい社会の構築に向けて、持続可能な社会を形成・維持していく一員としてその責任を自覚し、実践しようとしている。【態】	・ワークシート ・定期試験 *スライド
6	・パフォーマンス課題「金融と経済を考える」高校生小論文コンクールに向けて <2時間>	◎ ○	*生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察することができている。【思】 ・経済的側面から自らの生き方や暮らし方を考え、責任ある生活者としてよりよい生涯の暮らしを創造しようとしている。【態】	*小論文

※◎は、重点的に生徒の学習状況を見取る観点、*は、記録に残す評価

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・金融資産の基本的な特徴とそれぞれのメリット・デメリットを理解する。[知識及び技能]
- ・資産形成においては、貯蓄と投資をバランスよく配分することが重要であることを理解する。[知識及び技能]
- ・適切な貯蓄・投資行動を選択することについて、考察したことを論理的に表現する。[思考力、判断力、表現力等]

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現
・金融資産の基本的な特徴とそれぞれのメリット・デメリットを理解している。 ・資産形成においては、貯蓄と投資をバランスよく配分することが重要であることを理解している。	・適切な貯蓄・投資行動を選択することについて、考察したことを論理的に表現している。

(3) 準備物 教科書「家庭基礎(自立・共生・創造)」(東京書籍)、ワークシート、ChromeBook

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立て	評価場面 (評価方法) 【評価の観点】
導入 10分	1. 前時までの振り返りを行う ○前時に行った「資産形成ゲーム」の振り返りを行う。 2. 本時の目標を確認する くめあて> 金融商品の特徴を理解し、将来の資産形成について考えよう。	・前時までの学習を振り返らせ、クラス全体で確認する。 ・ゲームの場面(成功したと思った時、失敗したと思った時)を想起することで、投資のコツについてイメージを持ちやすくする。 ・めあてを板書する。	
展開 30分	3. 金融資産の基本的な特徴を確認する。 ○金融商品の基本的な特徴と投資の三原則(長期・積立・分散)を理解する。 4. 3つの世代(20~30代, 40~60代, 70代)における資産形成について、どのような金融商品(預貯金・株式・債券・投資信託)が適しているかを考える。 ○4~5人のグループごとに世代を設定する。事例において、適切だと思われる金融商品を個人で選択し、理由と合わせてワークシートへ書き込む。 ○個人の意見をグループで出し合う。 ○代表者が発表し、クラス全体で共有する。	・説明の際には根拠となる資料を提示する。 ・資産形成においては、貯めることを重視した預貯金と増やすことを重視した投資をバランスよく配分することが重要であることに気付かせる。 ◆以前学習した金融商品の特徴をまとめたプリントでメリットとデメリットを確認し、選択するよう伝える。 ・ライフステージや個人の価値観、時代性に合わせて金融商品を選択することが大切であるということに気付かせる。	(ワークシートへの書き込み) ・金融資産の基本的な特徴とそれぞれのメリット・デメリットを理解している。【知識・技能】 ・資産形成においては、貯蓄と投資をバランスよく配分することが重要であることを理解している。【知識・技能】 (ワークシートへの書き込み) ・適切な貯蓄、投資行動を選択することについて、考察したことを論理的に表現している。 【思考・判断・表現】
終結 5	5. 本時の目標の達成について、振り返りをR80へ記入する。	・金融商品の特徴や仕組みを十分に理解することが適切な資産形成につながるということを伝える。	

(5) 判断基準

評価	知識・技能	思考・判断・表現
A (十分満足できる)	金融資産の基本的な特徴とそれぞれのメリット・デメリットを理解したうえで、資産形成においては、貯蓄と投資をバランスよく配分することが重要であると理解しようとしている。	適切な貯蓄・投資行動を選択することについて考察したことを根拠に基づき論理的に表現している。
B (おおむね満足)	金融資産の基本的な特徴を理解したうえで、資産形成においては、貯蓄と投資をバランスよく配分することが重要であると理解しようとしている。	適切な貯蓄・投資行動を選択することについて、考察したことを論理的に表現している。
C (努力を要する)	金融資産の基本的な特徴を理解しておらず、貯蓄と投資をバランスよく配分することの重要性について理解しようとしていない。	考察したことを論理的に表現していない。